炭婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱　474・5228
※責任者＝文教部長　下川秀子

〝今後の主婦の構え〟
主婦会評議員会できまる

会社は卑劣な差別待遇に加えて、二十八名の解雇を一方的に通告したり、離職者の社宅追い出しをはかるなど、悪どい攻撃をつづけています。さらにまた年末年始に入り、組織攻撃が予想されますが、主婦会では十二月十八日評議員会をひらき、こういう事態を迎えた中で、決意を新たにしさらに話合いを持ち意志の統一をはかるため〝今後の主婦の構え〟を討議し、つぎのようなことを決定しました。

私たちの構え
一人ひとりの決意を高めましょう

一朝一夕に会社の攻撃がゆるまるとは考えられませんし、また他力本願的な考えではならないと思います。

希望の焦点にゆきつくまでには、けわしい山道のあることや、大嵐の荒海のあることも十分覚悟しなければならないと思います。

目前の安易な道よりも、困難であろうとも、お互いに信じ合い助け合い、励まし合ってすすむ正しい労働者としての生きがいのある道を一人ひとりの決意により切りひらいて、私たちがどんな差別にも切りくずしにも微動もしないという鉄の体制が確立できた時こそ、会社の差別待遇や切りくずしを完全に排除できる日であることを、自信をもつて確信したいと思います。

闘いを拡めよう

政策転換闘争は、石炭労働者の苦しみと訴えをはじめて、幅広く一般化しましたし、合理化に対決するすべての労働者が、保守反動政治に批判を高める機会をつくりつつあります。

私たちは、一人ひとりが差別と切りくずしに強く抵抗する決意を固めるとともに、その根本となつている独善的な資本に立ち向らためにも、いつそう広く一般の方たちとともに手を握り合う必要があります。このことは、三池闘争でかちえた私たちの大切な教訓と考えられます。

当面の私たちの行動

○虚礼廃止

例年のことですが、今年度はとくに一家団らんに中心をおき、分会の団結祝賀会終了後は、みんなで楽しく過ごしましょう。

○家計簿実施

私たちは不足がちな生活をつづけておりますが、確実な予算生活により、健全な生活設計をたて、子供たちの教育や生活向上のための指針にしたいと思います。

○革商育成

ささやかではありますがボーナスが出ました。このボーナスを獲得するためには、組合員はストを行ない、組合執行部は徹夜交渉をすすめました。このボーナスは意義あるものに使用したいと思います。

争議中「ストはイヤ」とはり紙をし、私たちにそっぽを向いた多くの商店のあったなかで、かげにひなたに協力して下さった革商の力づよい支援のあったことに感謝し、多くの買物はできないにしても、買物するときは革商から買いましょう。

○労金育成

私たちにとつて労金の大切なことはいまさらいうまでもありません。切りつめられた予算ではありますが、私たちの生活のささえとなる労金のはたす役割りの重大さを考え、友愛定期リレーに積極的に協力しましょう。

○燃料の友愛配給

燃料の友愛配給をはじめ曼、フスマ替えの操作を、離職者の立場を再認識して、この人たちをつつんで、こんどの闘いをすすめるためにも一、二〇〇名の人に友愛カンパをつづけてゆきましょう

労働会館でひらかれた評議員会

むすび

以上述べましたように今年度はまことに困苦に満ちた年であり、多事多難な年でありました。しかしともあれこの一年間を皆さん方とともに、団結し組織を守り抜いてきたことを、そしてさまざまな反省の上に立つて、来るべき新らしい年を迎えたいと思います。

なお、来年度は重大な参議員選挙に当つています。政治と私たちの生活の直結していることは明らかであります。

選挙では私たちの生活を守り、私たちの意志を代表するという立場から、組織で決定された人を送ることがどんなに大切であるかは、今さらいうまでもありません。

手近な例では、荒尾市の市長選挙で私たちの選んだ候補者に代つて、保守の古閑市政が行なわれるようになつたとたんに、前坂田市長の革新的な民主市政は根本からくつがえされ、その一例として教育委員の一方的な任命に伴い勤評実施が即刻行なわれ、それによつて民主教育の破壊を企らむ文部省が実施しようとする今次の学力テストに反対された荒尾の三名の先生方に休職を命ずるなど、思いめぐらせば選挙に当つての私たちの心構えが、どんなに大切であるか痛切に感じさせられます。

組合との協力できめられた「お互いの申し合わせ」を中心に、年末年始にのぞむ決意を行ない、組織防衛と生活向上にみんなで力を合わせましょう。

私たちをとりまく情勢

いま私たちに大切なことは、現在おかれている私たちの立場を、目先だけではなしに正しく認識すると同時に、将来の見通しについても労働者としてのはつきりした確信をもつことだと思います。

(1) いま会社は、わかりやすくいえばアメとムチの労務政策をもつて私たちに切りくずしをかけております。夫たちの日々の配役や合建、スト破り一時金などの形で第二組合にアメをあたえ夫たちには職制の圧力による切りくずしの形でムチをもつてのぞんでいます。

このことはすでに学習で理解されているように、第二組合の組織拡大をはかろうとする会社の意図にほかなりません。そしてそのことは一五・〇〇〇トン体制を強行し、さらに来年度に計画されている大幅な合理化に備えて、会社の思う通りになる組合をつくりあげることです。

(2) このことをあたかも裏付けるように、第二組合はすでに平和協定なるものを結びましたが、その内容は、第一に労働者のイザというときの最大の武器であるストライキを二カ年も禁止され、第二に能率向上（標準作業量の一方的引き上げのこと）や資材節約などの合理化を全面的にみとめる生産性向上委員会を設け、第三に組合の共済会に会社側を入れたりするなど、労働組合としての本質を全く見失つた協定であることは一般に知らされました。

第二組合は、職制のいうがままに動かされ、すでに各所で高たきや就職あつせんという形で目に見えない首切りが行なわれていることも事実です。

一方、苦闘に耐えて闘い抜いている私たちの、労働者としての正しい姿は心ある学者の方たちをはじめ、一般の多くの人たちにも高く評価され、あらゆる機会に各婦人層にもひろめられてきましたが（三池争議は終つたと思われている人たちにも）ふたたび三池を守ろうとの意識がわき出しています。

組合の上部組織である炭労や総評、また三鉱連では私たちの闘いに労働者として連帯性のある深い理解のもとに、それぞれの形で三池支援が決定され、三池を守る火はふたたび力強く燃え上り、私たちの前途に希望と勇気をもたらしつつあります。

第二組合では、十二月六日から七日にかけて行なわれました役員改選三カ月延期についての無記名投票では、二、六二二名にのぼる約三九パーセントの反対が結果として出ております。

このことは、労働組合としての本質を忘れた第二組合幹部にたいして、相当な不満のあることを物語つています。

当面の私たちの行動

○虚礼廃止

例年のことですが、今年度はとくに一家団らんに中心をおき、分会の団結祝賀会終了後は、みんなで楽しく過ごしましょう。

○家計簿実施

私たちは不足がちな生活をつづけておりますが、確実な予算生活により、健全な生活設計をたて、子供たちの教育や生活向上のための指針にしたいと思います。

○革商育成

ささやかではありますがボーナスが出ました。このボーナスを獲得するためには、組合員はストを行ない、組合執行部は徹夜交渉をすすめました。このボーナスは意義あるものに使用したいと思います。

争議中「ストはイヤ」とはり紙をし、私たちにそっぽを向いた多くの商店のあったなかで、かげにひなたに協力して下さった革商の力づよい支援のあったことに感謝し、多くの買物はできないにしても、買物するときは革商から買いましょう。

○労金育成

私たちにとつて労金の大切なことはいまさらいうまでもありません。切りつめられた予算ではありますが、私たちの生活のささえとなる労金のはたす役割りの重大さを考え、友愛定期リレーに積極的に協力しましょう。

○燃料の友愛配給

燃料の友愛配給をはじめ曼、フスマ替えの操作を、離職者の立場を再認識して、この人たちをつつんで、こんどの闘いをすすめるためにも一、二〇〇名の人に友愛カンパをつづけてゆきましょう

むすび

以上述べましたように今年度はまことに困苦に満ちた年であり、多事多難な年でありました。しかしともあれこの一年間を皆さん方とともに、団結し組織を守り抜いてきたことを、そしてさまざまな反省の上に立つて、来るべき新らしい年を迎えたいと思います。

なお、来年度は重大な参議員選挙に当つています。政治と私たちの生活の直結していることは明らかであります。

選挙では私たちの生活を守り、私たちの意志を代表するという立場から、組織で決定された人を送ることがどんなに大切であるかは、

子どもの教育と文化をまもり育てるための会議が、十二月二、三日の両日、岡山市でひらかれた。この会議は、一九五三年日本の民主化の逆転があらさまになつた年――池田・ロバートソン会談によつて、日本の政治、経済、教育文化が、対米一辺倒になり民主・独立・平和への道ゆきが暗い逆行をしようとするまがり角の状況のなかで生み出された。

二四分科会で討議

その背後には、この社会の生活の主権を求める国民の、父母の、労働者の生活要求、福祉要求があり、その要求に根ざした教育と文化の要求がここに結集している。会議は、この力を各地域で職場でつみあげて、毎年一回、全国的規模でおこなわれてきた。今年で、九回の年輪をかさねている。今年は、三千余の国民各層の人々、父母、労働者、農民、青年、専門家という人によつて、円卓会議による討議がされた。討議は、大別して、(1)子どもの健康と安全(2)教育学習上の問題(3)健全な児童青少年文化の育成(4)人間関係の諸問題(5)とくに位置づけるべき問題と領域わけをして、これらの問題が、子どもの成長発達と、社会生活条件のなかでどうつかまれ、どう解決の道すじがつくられていくかと、二四の分科会をつくつてなされた。

子供の生活の確立

乳幼児から就学前児、小学低、高学年、中学生、高校生、働く青少年とその健康の問題、生活しつけの問題、学習、労働と生活、マスコミ文化に対する態度等々、多数な問題が、さまざまな視覚から出された。幼児、児童といつて、親の保護の対象とされながら、その人間としての立場、人権がしつかりとうち立てられる生活がないこと、とくに労働者農民として、下ずみの生活を強いられ、子どもの生活がしつかりとうち立てられない現実をしつかりとみつめ、伸びるべき子どもの生命には自立権があり、この親たちには、国民として生活の主権がなければならないのだというたてまえをつかみながら、子どもの生活の確立を求めたいという教育の要求となる。小学校では、中学、高校では、とそれぞれの教育の場面において、どのような力が学力がつけられるのか、さらにこのような教育の場は全国的な成長発達を求める教育、そこでつけられるべき学力は、教育の内容や話題をたしかめながら、話しあわれた。文部省が全国中学生にした一斉学力テストは、子どもの力を規格化、機械化して自主的自発的な能力を身につけさせるものではない、子どもを道具機械にしてる教育がしくまれていることを批判して、その背後にある力に眼をむけていつた。そしてその力に対決して、どうしても子ども達がこの社会に自主権を確立できる人間になるためには、小中の教育を自主的につみあげ、後期中等教育である高校まで義務制化していかなければならない。その前条件として、国民の要求にもとづいて高校全員入学の道がつくり出されなければならないということがみとめあわれた。

この運動を国民の運動へ

以上教育のことがらが中心になつたが、マスコミ文化への対決点などさまざまな問題が出され、これを全体会議で確認しあい、明日からの運動を決意しあつた。この会議は、子どもの文化をきずく運動として展開していく。そしてこの運動は、国民の運動として、「平民共闘」の運動につながり、労働者の権利要求の運動につながつてすすめられていくのである。

（おおた・たかし氏は国学院大助教授）

子どもに明るい未来を
―第九回子どもを守る文化会議から―

太田卓

国民の教育づくり

母子家庭の子ども、労働者、農民、国民各層の子どもの具体的な生活を出しあつて、幼児の健康、保育、就学前のしつけ、学習、子どもの集団のことなど、みんなの子どもがしつかりとみつめられ、育てられる条件をどうつくり出していくかということがとられた。

高校全員入学を

国民のすべての子どもの能力の発達を求める教育、そこでつけられるべき学力は、教育の内容や話題をたしかめながら、話しあわれた。文部省が全国中学生にした一斉学力テストは、子どもの力を規格化、機械化して自主的自発的な能力を身につけさせるものではない、子どもを道具機械にしてる教育がしくまれていることを批判して、その背後にある力に眼をむけていつた。そしてその力に対決して、どうしても子ども達がこの社会に自主権を確立できる人間になるためには、小中の教育を自主的につみあげ、後期中等教育である高校まで義務制化していかなければならない。その前条件として、国民の要求にもとづいて高校全員入学の道がつくり出されなければならないということがとられた。

この親たちのねがいは、しつかりとした力を子どもにつけてやりたいという教育の要求となる。小学校では、中学、高校では、とそれぞれの教育の場面において、どのような力が学力がつけられるのか、さらにこのような教育の場は

【みんなの科学】

ソ連製 生ワクを拒否
厚生省 主婦の要求を足げ

▽…厚生省が来年の小児マヒ予防生ワクチンに、ソ連製のものをやめてカナダのコンノート大学研究所製のものを使用することを決めたニュースは、全国の親たちの耳を疑わせました。今年の大流行がソ連から輸入された一千万人分の生ワクチン・ボンボンによつてくいとめられたことは衆知の事実だつたからです。これに反し、カナダから輸入された三百万人分のシロップ状生ワクチンは、のみずらいだけでなく福岡、大阪などの投与地域では相当数の子どもに副作用さえありました。

カナダ製を決定

▽…このため、来年もぜひソ連の生ワクチンを輸入してほしいとの希望が強かつたわけです。厚生省の「カナダ製使用決定」に不審をいだいた〝子どもを小児マヒから守る中央協議会〟の代表が、厚生省の牛丸薬務局長、中原製剤課長にあつて事情を聞こうとしましたがノーコメント。明らかにされたことは、厚生省は科学的な調査などもやつていないということでした。

品質低下は必至

▽…その席上で「カナダ製のものには、心配される猿ウイルスがはいつていないが、ソ連のものには混入する恐れがある」などと、もつともらしい反対理由をのべましたが、ソ連は生ワクチンに紫外線をあてて猿ウイルスをのぞく実験に成功し、この方法でとりのぞいているのですから〝猿ウイルス〟は〝ため〟にする口実でしかないことが、いつそうはつきりしました。それに値段もカナダ製は、ソ連のものより三割高くつき、また厚生省が輸入しようとする一千七百万人分は、カナダの生産能力を上まわつているため、品質低下はまぬがれないだろうというのが事情に通じた専門家の見解です。

ソ連製をなぜ拒否したか

▽…ではなぜ、効果が高く、しかも何千万人分もすぐ送ると好意を示してくれているソ連の生ワクチンを拒否し、カナダ製にきめたのでしようか？　第一の理由は、ソ連の生ワクチンを拒否することで昨年から今年へかけて小児マヒ予防のなかで育つた日本の母親たちの親ソ感情を弱めようということにあります。第二には、日本の製薬会社がソ連と取り引きすると、アメリカ側からの有利な扱いをうけにくくなる、というので消極的な上に、池田・ラスク会談で日ソ貿易に圧力が加えられ、対ソ貿易をやる会社にたいしては金融の点でも引き締められる恐れがあり、消極的になつたことがあげられます。

人道問題に政治を

▽…つまり日本とアメリカの反ソ政策が、ソ連の生ワクチン拒否の結果を生んだのだといえます。しかし、このことによつて被害をうけるのは日本の子どもです。政府は人道問題にまで政治をもちこもうとしているのですから許せません。

厚生省のカナダ生ワクチン決定は国民のためを思うようなふりをしたあくどいごまかし、といえます。子どもを小児マヒから守るために効率の高いソ連製生ワクチンを来年も輸入させましよう。

四県学習会

十二月二十一、二十二日の二日間福岡市で炭婦協四県学習会がひらかれた。これは炭婦協の幹部を対象としてひらかれたもので、来年の参議員選と物価値上りとを結合したテーマであつた。